

子どもたちにより豊かな教育環境を

市では、山谷町地区に、こんど新しい小学校をつくる計画をたてました。
この小学校は二万八千平方メートル約八千五百坪の敷地に、鉄筋三階建ての校舎二棟と体育館のほか、屋外運動場やプールも設備するため、来年度から建設して五十二年四月の開校を目ざすものです。

いま、この学校の用地の確保をすすめており、関係各位、父兄のみなさんのご協力とご理解をお願いいたします。

山谷町地区に小学校を新設

五十二年年度の開校めざす

子どもたちのすこやかな成長をねがい、また、よりよい環境のもとで勉強に励んでもらうため、市ではこれまで小学校、中学校、校舎の改築や増築をすすめてき

ました。新しい小学校を建てて、二小の学区を拡大し、谷町三丁目地区に、信越線の西側地区(山谷町や新栄町など)の子どものために、新しい小学校を建て、三年後の昭和五十二年四月からの開校をめざしています。

谷町三丁目地区に、信越線の西側地区(山谷町や新栄町など)の子どものために、新しい小学校を建て、三年後の昭和五十二年四月からの開校をめざしています。

新設校は山谷地区に

通学の便、学区将来も考えて

では、どの地域に学校を建てたら一番よいのか——というところは、いろいろと問題があるところですが、市では次のことを考えて、信越線の西側(駅裏の山谷方面)を選びました。

- 学校を新設した場合、近いうちに戸数人口(生徒)が増える見込みのあるところ
- ほかの学区との区割りに無理のないところ
- 将来、さらに学校をつくらせ、学区を組む替わりに、学区に支障にならないところ
- 学校敷地(二万五千〜三万平方メートル)を求められるところ
- 第一小学校と第二小学校の学区の組み替えに無理のないところ
- 新設される学校が、望ましい大きさ(適正規模)につくられるところ
- これらのことから、新設小学校の学区と、組み替え後の一、二小の学区を、次のように計画しました。



狭い校地を生かし効率的な近代校舎の新津第二小

第一小学校は、本年度は、児童数千四百五十一名の三十七級と、児童数は二百六十六名、学級数では五級と増加となりました。

第一小学校は、本年度は、児童数千四百五十一名の三十七級と、児童数は二百六十六名、学級数では五級と増加となりました。

児童増す市街地校

教室不足が悩みです

学級数が、三十九まで減少しましたが、本年度は、再び児童数千五百三十四名、学級数は四十一級と増加の傾向に変わりました。

第二小学校は、昭和三十三年度の児童数二千二百六十六名、四十一級を最高に、一、二小の児童数と学級数は、四十五年度からまた増え

特別教室が必要な一・二小の教科ごとの時間数

学校別	教科別	理科	音楽	図画	家庭	図書	視聴
第一小学校	授業時間数	2	2	1	1	1	1
第二小学校	授業時間数	1	2			1	1

今後に予測される一・二小の学級・児童数

年度	昭和49年度	50	51	52	53	54
第一小学校	児童数 1,537	1,604	1,606	1,626	1,668	1,746
第二小学校	児童数 1,451	1,511	1,530	1,562	1,609	1,642

小学校を新設した場合の予測される児童数と学級数

年度	昭和49年度	50	51	52	53	54
第一小学校	児童数 1,306	1,361	1,362	1,396	1,441	1,506
第二小学校	児童数 1,042	1,075	1,097	1,100	1,139	1,163



環境の豊かさは子どもたちに夢も

校地は狭く増築も限度

このままいくと超マンモス校に、学校の望ましい大きさは、十八年度の八百名前後といわれています。ですから、現在ある一・二小は、相当なマンモス校といわなければなりません。

小学校を新設してゆとりある環境に

それでは、新しい小学校ができるかどうかです。学区をわけて、それぞれの学校別に今後の児童数、学級数を見込んでみる。この数字が示すように、市街地校はともにバランスのとれ、望ましい教育環境を子どもたちに提供してやることができます。

夏のサンダル・バックバンド
紳士サマーメッシュシューズはイザワでどうぞ
はいて楽しくなる靴がいっぱいあります
TEL 0625

全国菓子大博覧会有功大賞受賞!!
平和塔最中・祝儀・仏式・お菓子
TEL (2) 0462

お金を貸します
KK大蔵
今一番評判の高い親切なサラリーマン金融
公務員の方は保証人不要
TEL (3) 0358

夏スーツ&ベルトレス・スラックス
男の服 うちだ Mimi うちだ
本町二丁目 (4) 0648